

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年7月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1671800447		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホーム やつお		
所在地	富山県富山市八尾町井田610-1		
自己評価作成日	2016年6月20日	評価結果市町村受理日	2016年8月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成28年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、萩野医院との連携で医療面が充実していると考えている。急性期の入院治療以外は、医療依存度が高くなっても継続して入居を希望される方が多く、看取り状態になっても、グループホームで最後を過ごされる方が多い。また、地域で暮らす、という事を大切にしており、ご近所の方々も気軽に事業所に寄って頂けるようになってきた。認知症の方が安心して、共に暮らしていくことができるよう、支えていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

経営母体である萩野医院のバックアップもあって、看取りの体制はしっかりと出来ており、利用者、家族への安心につなげるよう努めている。また、地域ボランティアや近隣保育園との交流、地域行事や催事への参加等、地域住民の支援も受けながら交流を深め、利用者が地域で和やかに暮らせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

グループホームやつお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「ゆっくり 楽しく 和やかに」を毎朝復唱してから仕事を始めている。また、今年度より事業所ごとの目標として「利用者様と一緒に身体を動かす」を掲げレクリエーションや散歩を行っている。	グループ共通の理念を毎朝復唱し、職員間で共有するとともに、事業所独自の年度目標を掲げ、散歩やレクリエーションなど、利用者と一緒に身体を動かすよう、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に、散歩中に寄って頂き、利用者と交流して頂いたり、地域の行事に参加させて頂いたり、利用者との散歩で近所の方と話をしたりしている。	地域との触れ合いを大切に考え、散歩の時には地域の人達と挨拶を交わしたり、事業所に園児や学生の来訪を積極的に受け入れ、利用者との交流を進めている。春祭りなど地域の行事にも参加しており、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は「認知症予防について」法人の看護師より、家族や地域の方を対象に講演を行った。毎年、14歳の挑戦や、高校生の事業所見学を通じて認知症についての説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、毎月の研修や行事などを報告している。会議で出た意見を元にサービスの向上に生かせるようにしている。	会議には地区代表や行政センター職員、家族会の代表などの参加を得て、活発に意見交換が行われている。事業所から利用者の様子などを報告し、参加者からはケアの取り組みについての質問や意見をもらいサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政センターの方に運営推進会議に参加して頂いている。また、市の介護相談員を受け入れ、毎月の来訪時に日頃の状態を伝えている。	毎月介護相談員が訪れ、職員や利用者との会話を通じ交流を図ったり、市の担当者に事業所の状況を伝え、ケアに対してアドバイスをもらう等、日頃から連携を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修にて、身体拘束による弊害や対象となる具体的な行為などを学び、日々のケアの中で、どうすれば拘束しないケアができるかを話し合っている。	身体拘束とならないケアについて、外部及び事業所内の研修を開催し、点滴中の見守りについても拘束に当たらないか等、具体的な行為まで職員が正しく理解しているか話し合い確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修も毎年行い、正しい知識を学ぶことで、より良い介護を目指している。職員の精神面を配慮し負担軽減のため、職員同士の声の掛け合いや、時には業務の交代を行うことで、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、必要があれば話し合い等を行うが、必要な方はすでに入居前より制度を利用されており、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い同意を得ている。後日、疑問点などがあれば、その都度理解が得られるまで説明を行っている。料金変更時には、文書にて変更のお知らせを送っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などを利用し、気軽に意見や要望を聞くようにしている。毎年、満足度調査を実施し、その結果を家族交流会の中で発表している。	家族が面会に訪れた時や毎月発行する「やつお通信」などで利用者の様子を伝え、意見や要望が気軽に出せるよう努めている。また、毎年家族に対し満足度のアンケートを行っている。	寄せられた意見や要望は職員共通のこととして認識し、全員で話し合い見直しなどを進め、改善の経過や結果を利用者や家族に伝えていく仕組み作りが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から個別に職員の意見や提案を聞いたり、カンファレンス等で介護や業務に関する意見や提案を話し合い、反映している。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、毎月のカンファレンスや個人面接により、職員の意見や要望の把握に努めている。また、職員の研修も積極的に進められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の能力、努力や実績、勤務状況を把握し、代表者に報告している。それらが給与や賞与に反映され、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員が適切な部署で働けるよう検討している。法人では職員の介護の質が高まるよう年間の研修計画を立て、毎月施設内研修及び集合研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	富山県認知症グループホーム協会や日本認知症グループホーム協会に入会し、各研修への参加を通じネットワーク作りやサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談したり、家族や担当のケアマネージャーより情報を基に十分な観察と寄り添う介護を心掛けている。そして要望や不安の把握に努め、安心できる生活へと支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居時に家族と面談し要望や不安を確認している。また、入居以降も面会時に近況を伝え、これまでの暮らしについての話を聴きながら家族との関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時より、利用者や家族の状況を確認し、必要と思われる介護サービス情報や医療情報を伝え相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、やりたい事を知り洗濯物や茶碗拭きなどの力を発揮してもらっている。共に喜び支え合う関係を築けるよう、努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信や家族の面会時に、本人の状況や家族への思いを伝えている。家族との絆を大切に、共に支え合い良い関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、特に制限なく自由に交流して頂いている。また、馴染みの場所へ花見に出かけたり、家族の協力によりお墓参りなどに外出されており、馴染みの関係が途切れないように支援している。	近隣の人達や家族の人が自由に訪れ、利用者と会話が楽しめるよう支援している。また、利用者の要望があれば、馴染みの場所や墓参りなど、家族の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の暮らしの中に、共に楽しめるようなレクリエーションを取り入れている。孤立しがちな方へは職員が間に入り、利用者同士の関係が悪化しないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設または病院へ転居される場合は、詳しい情報提供を行い、退去後も相談に応じている。また、永眠された場合は、葬儀に参列させて頂き、家族と共に最後のお別れをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意見を、何気ない会話や日々の行動の中から聞き取っている。会話の困難な方には、細かな表情やしぐさなどを踏まえ家族や過去歴より気持ちの把握に努めカンファレンスで話し合いケアの統一を図っている。	視覚や聴覚などの衰えで日々変化する様々な症状に合わせ、ゆっくりと動作や気持ちに寄り添って思いや意向の把握に取り組んでいる。情報は職員間で共有し日々ケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、本人や家族、担当のケアマネージャーから情報を得て参考にしている。また、日常の会話の中からも情報を聞き取りサービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、申し送り時にミニカンファレンスを行い、記録には反映しにくい情報などを聞き取っている。また、カンファレンス時に個々の情報をまとめ、総合的な把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護の中で、課題を見つけ本人や家族の要望を反映させながら、職員で話し合い気づきやアイデアを集結し介護計画を作成している。	それぞれの関係者の意見を反映し、その人らしい生活の送り方を考えて介護計画に取り組んでいる。ある家族からは食事が進むような声かけを教えてもらい、即現状に取り入れた計画を立てて勧めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の入居者日誌に日々の記録を行い、介護計画の見直し時期にはセンター方式のDシートを活用しケアの見直しや、新たな気づきができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	萩野医院より週1回の訪問診療を受けている。希望により、医院からのバスに乗り、リハビリを受けている方もおられる。必要があれば、近隣の歯科医の往診も受けることができ、医療面がとても充実している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の高校生によるおわら踊りや口腔ケア体操、週に1度のボランティアによる紙芝居や新聞の読み聞かせ、近隣の保育園との交流、獅子舞やおわら見学など、地域の方々の支援を受けて楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	萩野医院との医療連携により、週に1度の訪問診療の他、必要に応じて医療を受けることができる。専門的な治療が必要な場合は家族の希望する他院の受診も可能である。	いつでも適切な医療を受けることができ、本人、家族が安心して生活ができる連携が図られている。他科の受診に於いては、家族の協力を得て進めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員自身が、日々利用者とかかわりを持ち、他の職員から情報を得て、医学的な観点から気づいたことを主治医に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院先の地域連携室と家族に連絡を密に行い、利用者が安心して治療が受けれるよう努めている。入院中の情報も得ながら、退院時カンファレンスにも参加している。また、市民病院が主催の研修などにも参加し、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では何度も看取りを行ってきた。契約時より重度化と看取りの指針について説明を行い、本人の状態変化に伴い何度も家族と話し合い、同意を得ながらケアを進めている。	重度化や終末期においては、家族と何度も話し合いながら、最後までその人らしい生活の維持を保つことが出来るよう尊厳をもったケアに取り組んでいる。退居された後も必要に応じて家族に寄り添い、関係を断ち切らない取り組みに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当事業所にはAEDが設置されている。毎年消防の救命入門コースを受けている。転倒時や誤嚥時などの対応も、看護師より応急処置を習っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し、年2回の避難訓練を行っている。訓練時には、緊急連絡網を実際にまわし、時間を測定し内容も確認している。災害に備えての備蓄は必要物品の検討や入れ替えを定期的に行っている。	年2回の避難訓練は、地域住民の協力を得てあらゆる事態を想定し、職員全員で取り組んでいる。月1回は自主的に防災設備や消火器などの点検を行い、常に非常時に備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保については、たびたび研修を行い学んでいる。年に2回自己チェック表を記入し、振り返る機会を設けている。また、気になる言葉かけが見られた時には、お互いに注意し合うよう心掛けている。	利用者によっては男性職員の介助を拒まれる方もおり、距離を置く事もある。一人ひとりの人格を大切にして、プライバシーに配慮しながら、常に職員同士で日ごろの言葉かけなどケアを見直している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、飲み物メニューから飲み物を選んでもらっている。意思疎通が困難な方にも、ゆっくり声をかけ希望を聞いている。本人の思いや気持ちを尊重し、支援に反映されるように定期的にアセスメントを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を本人の思い思いに過ごして頂いている。歩行の困難な方や意思が伝え難い方は、体調に合わせて居室や和室で休んで頂いている。レクリエーションをする際は声かけを行い参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年に2回わくわくおしゃれデーとしてお化粧を楽しんで頂いている。男性の方でも手や顔のマッサージを行っている。季節に応じた衣類を家族に用意してもらい、入浴時、本人に選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、苦手な食材などの把握に努め、できる限りの変更を行っている。嚥下能力や食べ方に合わせた形態で提供している。また、茶碗拭きが役割として定着している利用者もおられ、声をかけなくても拭きに来られる。	事業所の畑で収穫したジャガイモや長芋などを使い、季節を感じられる調理を心がけている。食事の進み具合は利用者一人ひとりのタイミングを見て声をかけ、おいしい食事時間となるよう進めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養を考えた献立を立てており、形態や分量は個別に対応している。水分摂取を上げるため、提供する時間や温度、嗜好品など、いろんな工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促している。一人ひとりに合った歯ブラシを選んでき、義歯の方は毎晩洗浄を行っている。10時と15時にはお茶を煮出した水で、うがいをしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	飲水状況や個人の排泄パターンを把握して健康面も配慮しつつ自立支援にむけた介助をしている。排尿で困っている方には、泌尿器科の受診をして頂いている。	日中はトイレでの排泄を勧め、失敗のないようそっと声かけなどで促している。夜間は一人ひとりの尿量や安眠時間を考慮に入れて安心のためにパットを使用する方もいるが、状態に合わせて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳を提供したり、ココアや昆布茶など食物繊維が多い飲み物を用意したりしている。また、ロコトレや腹部マッサージなど腸の動きが良くなるような運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や気分の変化に合わせて入浴して頂いている。また、発汗時や排便失敗時など、必要に応じてシャワー浴なども行っている。冬至の日にはゆず湯にして楽しんでもらっている。	日々の体調や気分を見ながらゆったりとした入浴を勧めている。重度化の方にも職員2人介助で対応し、身体の清潔保持と気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、夜間の安眠誘導に努めている。体調に合わせて、日中休んでも頂いている。また、環境整備を行い気持ち良く休めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は看護師がセットし、誤薬がないように、複数の職員で確認を行っている。医療機関の受診時には、服薬情報や本人の状態などを伝え、薬の調整をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近所の方や職員が、散歩時ホームに寄って下さり、犬の好きな方と交流を持っている。茶碗拭きや新聞たたみ、洗濯物たたみなど、役割として行って下さっている。また自分の嗜好品を買いに近所のスーパーに付き添っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や買い物、地域交流も含めて外出できるよう計画をしている。今年の事業所目標として「散歩やレクリエーションなど、利用者様と身体を動かしましょう」と目標を立て、天候の良い日に散歩している。	本年度、事業所目標を立て、日常的に利用者の散歩や外出支援を行っている。年間計画にも四季を感じる外出や地域行事への参加も組み込まれており、利用者の楽しみとなるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は、お金を所持して頂き、買い物時支払を行っている。他の方は、事業所がお金を預かり、利用者と共に買い物をし、毎月レシートを付けて報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のプライバシーを尊重しながら、電話や手紙などの交流がもてるように支援している。ボランティアさんの協力もあり、大切な家族へ、年賀状や暑中見舞いを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のフロアには、季節の花や利用者が作成した塗り絵などを飾っている。和室ではくつろいで頂けるように、冬季にくたつを出している。南側には、四季の草花が咲いており、ベランダに出て自然を感じる事も出来る。室温は利用者に合わせて、温度調節を行っている。	共有フロアは南側で外光が入り、ベランダへの出入りも自由にできる。七夕飾りや塗り絵などで季節を感じ、利用者それぞれがソファなど居心地のよい場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の気分に合わせて、席替えを行っている。また、リビングには和室があり、襖を閉める事で空間を分けることができる。ゆったりと外を眺められる陽だまりではソファが設置してあり、気の合う方同士でくつろげるスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の生活もこれまでの生活の延長と考え、可能な限り使い慣れた家具や愛着ある品物を居室に置いてもらい、空間作りをして頂いている。	家族と共に利用者が居心地よく過ごせる部屋づくりを進めている。中には嫁入り道具の桐箆箆や家族写真を持ち込み、上から吊り下げた板に折り紙を飾るなど、落ち着く和の空間と個性が感じられる居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当事業所はバリアフリーであり、手すりが各場所に設置されている。各居室やトイレ、風呂場は目線に合った高さに表示し、安全に過ごせるように常に見守りを行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム やつお
 作成日 平成28年 8月 5日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族アンケート結果で、いろんな意見や要望があった。	笑顔や挨拶を心掛け、活気ある雰囲気にする。	①仕事前に鏡を見て笑顔チェックをする。 ②常に挨拶を心掛ける。 ③スタッフ同士、声を掛け合いながら、思いやりを持って行動する。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。